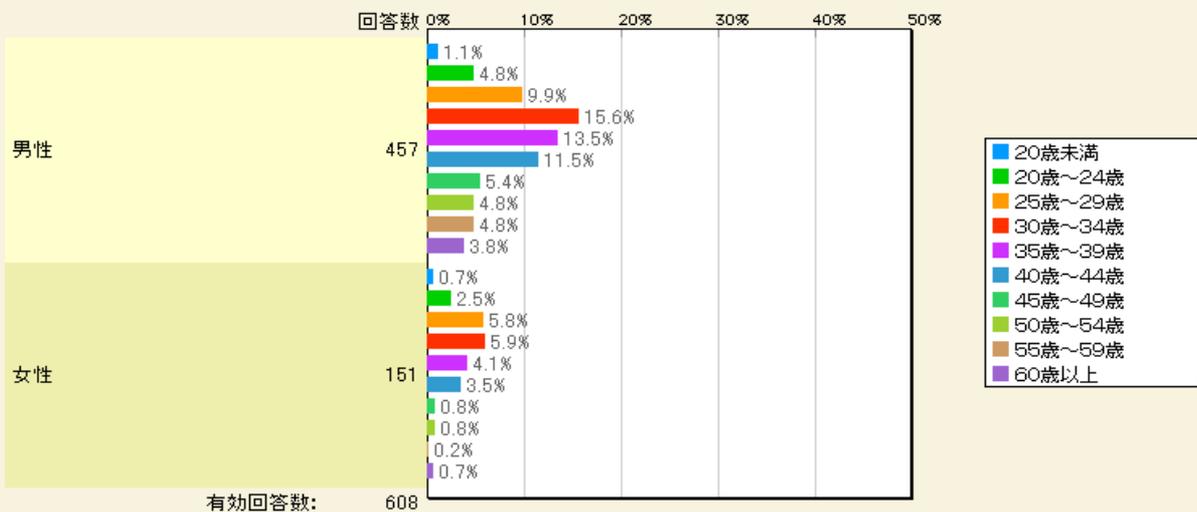
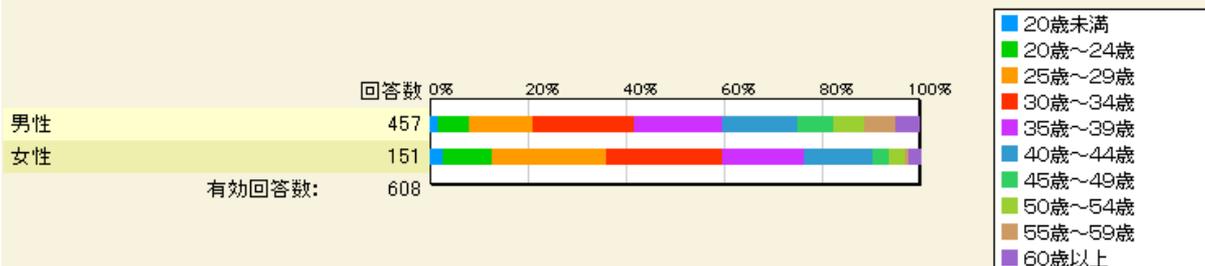
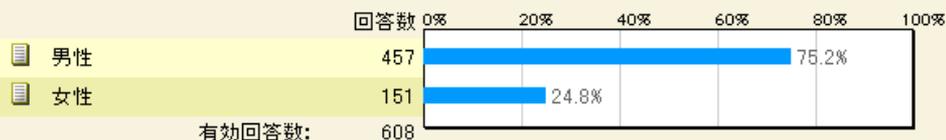


# 朝日パブリック・コメント 集計結果

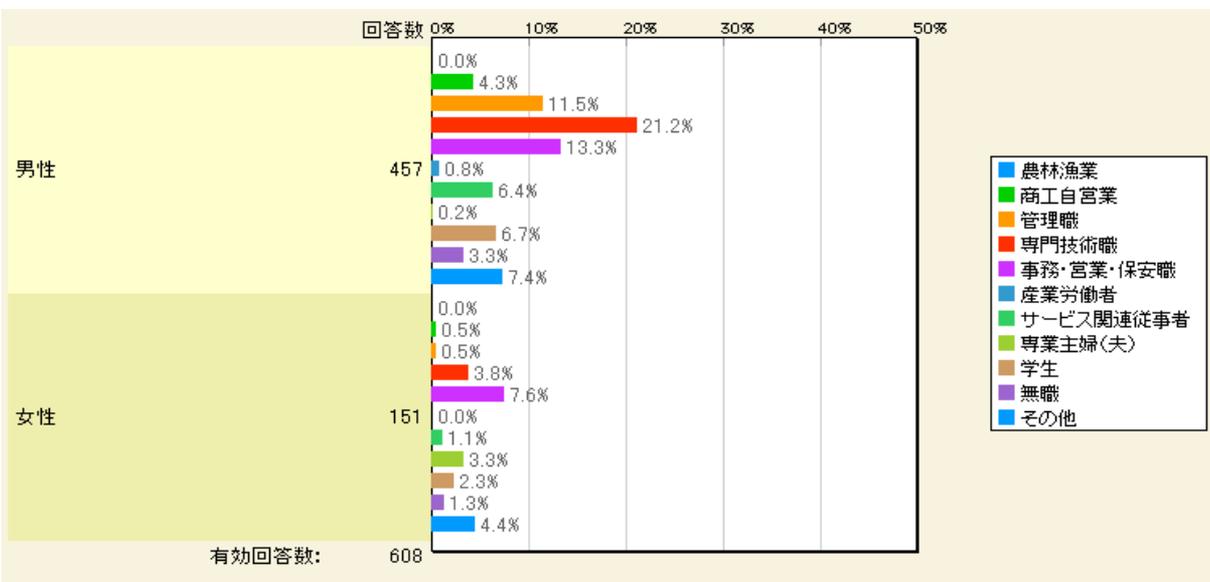
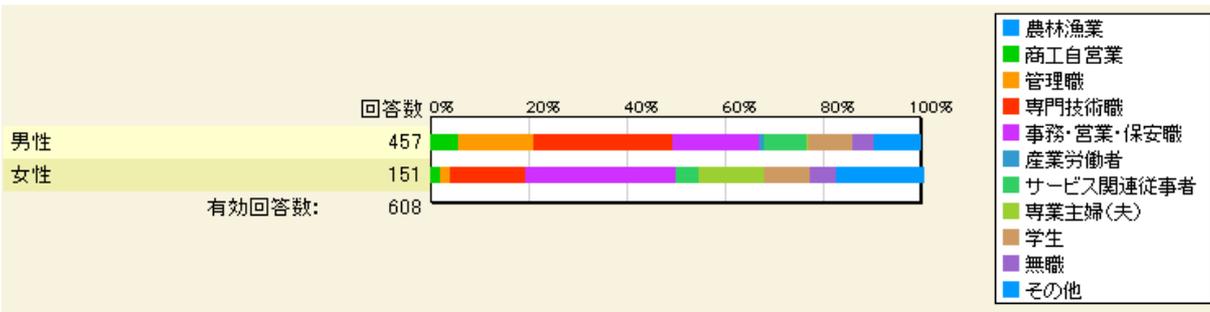
## 報告書

件名	； 裁判員制度パブリックコメント
調査対象	； アサヒ・コム読者 / 朝日新聞読者
調査方法	； 朝日パブリックコメントシステムを利用した フリーアンサー
集計期間	； 2003年8月4日(月)～9月3日(火)
有効回答数	； 608件
提出コメント数	； 503件
調査企画	； 朝日新聞社広告局 ・ 電通
レターヘッド	； 朝日新聞社広告局 朝日パブリックコメント

## 性別※



## 性別※



・性別 (n=608)

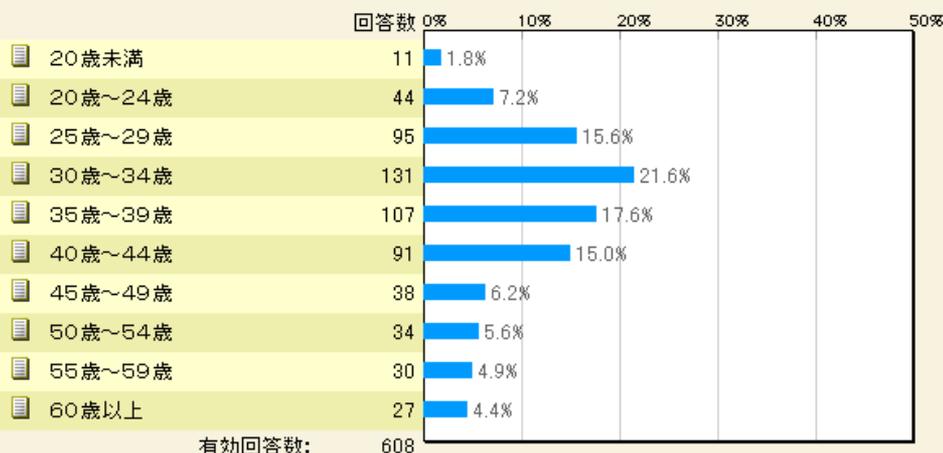
男女比=3:1

男性 (n=457) の職業上位3位 専門技術職 21.2%、事務営業保安職 13.3%、管理職 11.5%

女性 (n=151) の職業上位3位 事務営業保安職 7.6%、その他 4.4%、専門技術職 3.8% の順

※女性その他は派遣社員、主婦(パートタイム)などが考えられる

## 年齢※

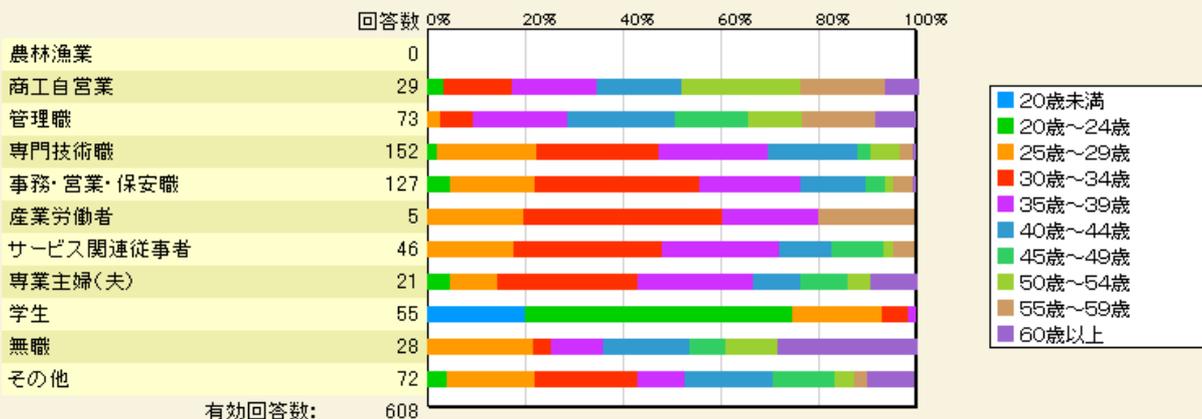
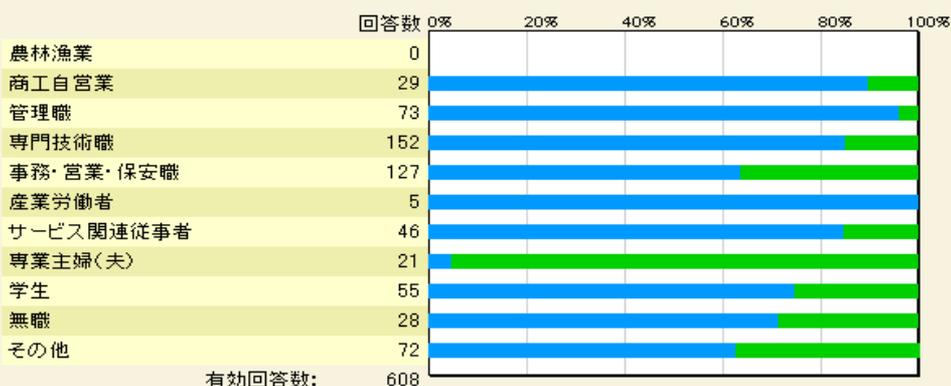
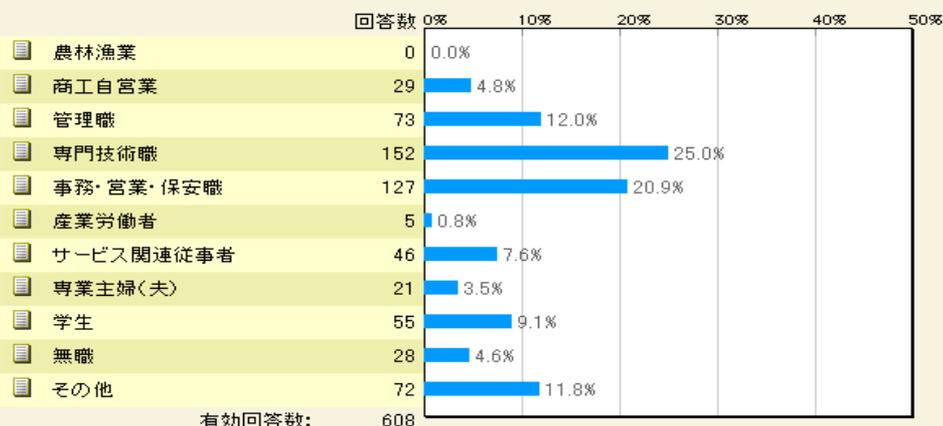


・年齢 (n=608)

20代、30代が6割、40代前半を含めるとおよそ8割弱に達する

20代は女性比率が高め(男:女=2:1)であるのに対し、45歳以上になると男性比率が高くなる(6:1)

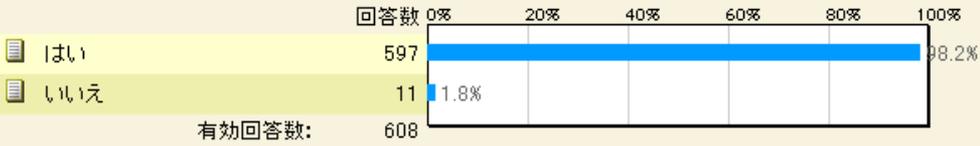
## 職業※



・職業 (n=608)

管理職 12.0%、専門技術職 25.0%、事務営業保安職 20.9%で合計すると約6割弱  
いわゆるホワイトカラー層を中心とした回答者が多いことが分かる

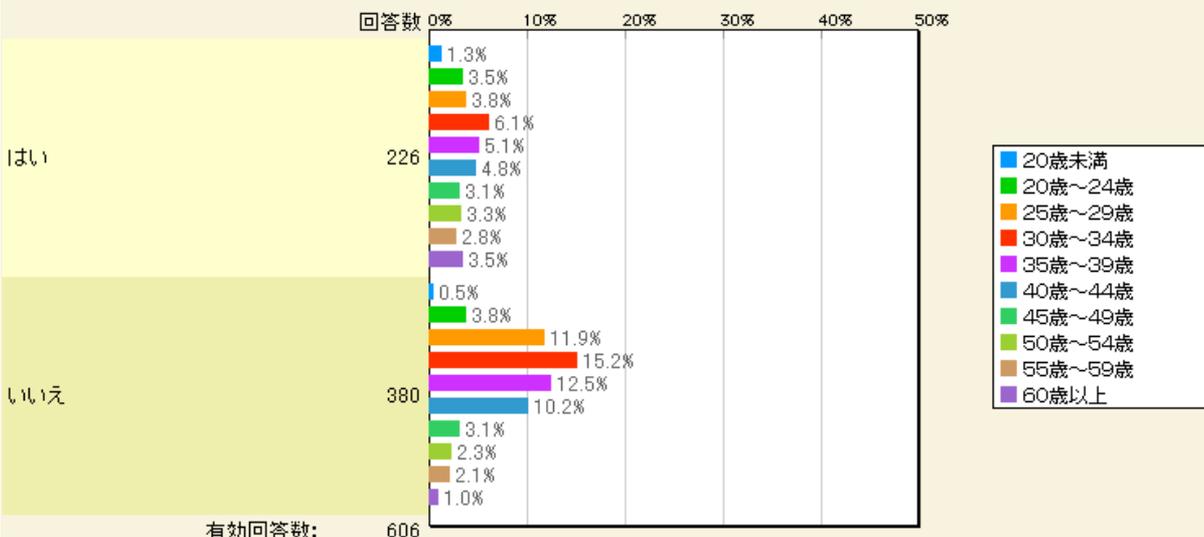
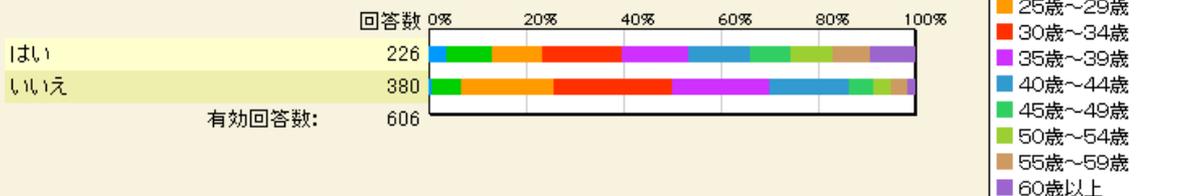
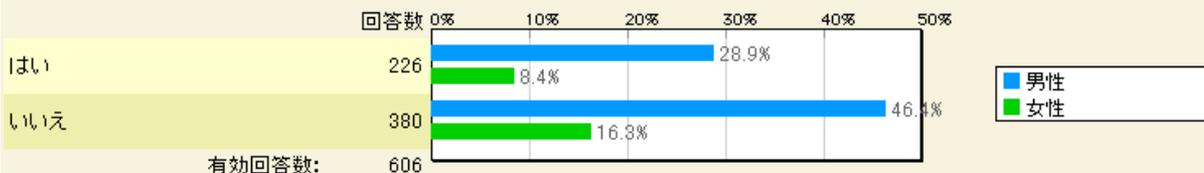
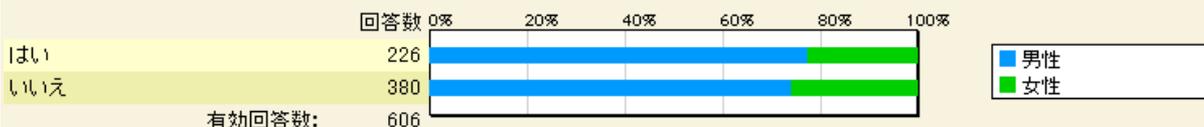
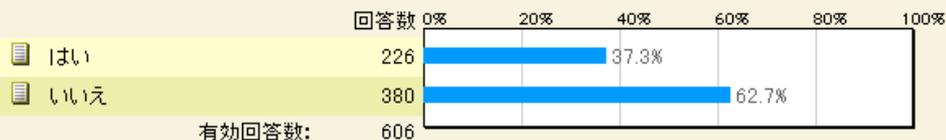
お答えいただいたご意見を提出してもよろしいですか※



98.2%が今回のパブリックコメントの提出に同意

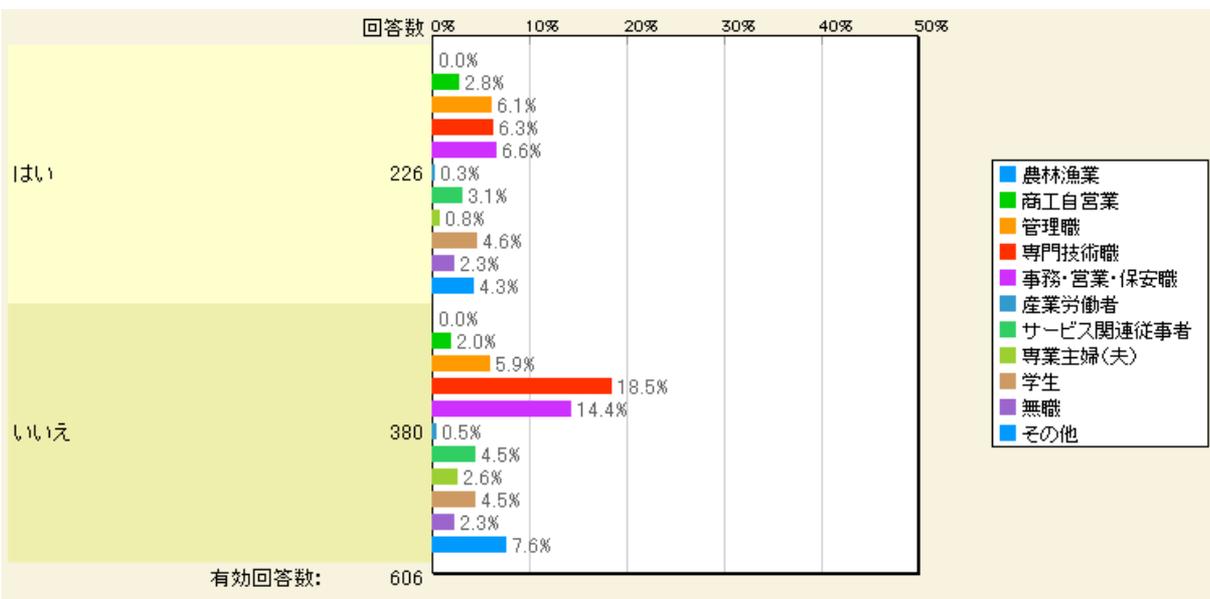
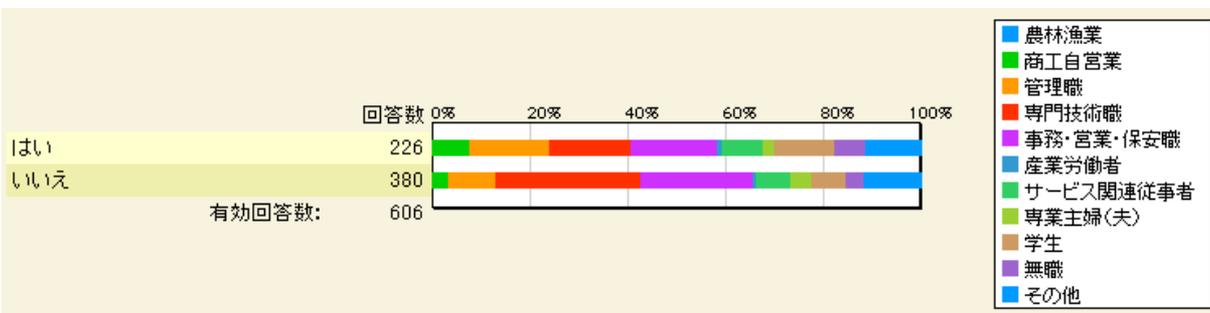
集計レポート [2] ■裁判員制度に関する質問です。

Q1. あなたは裁判所に行った事がありますか？



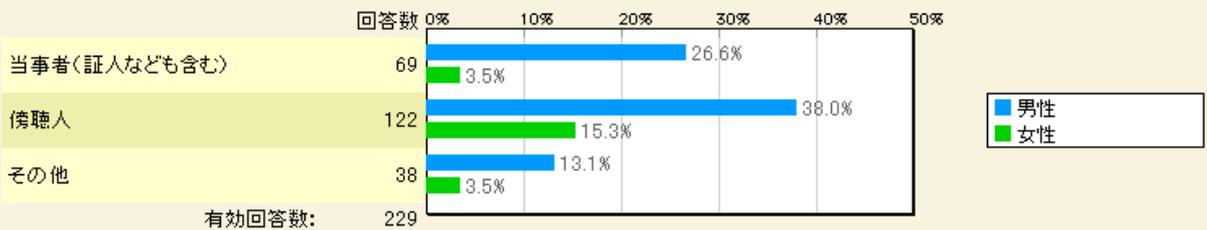
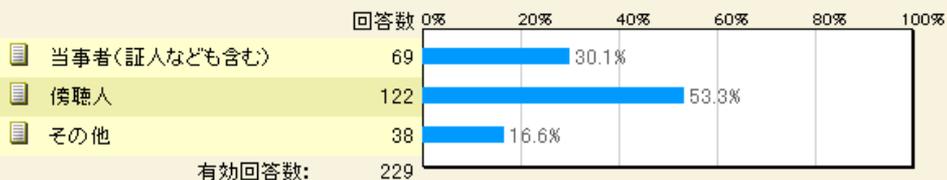
集計レポート [2] ■裁判員制度に関する質問です。

Q1. あなたは裁判所に行った事がありますか？



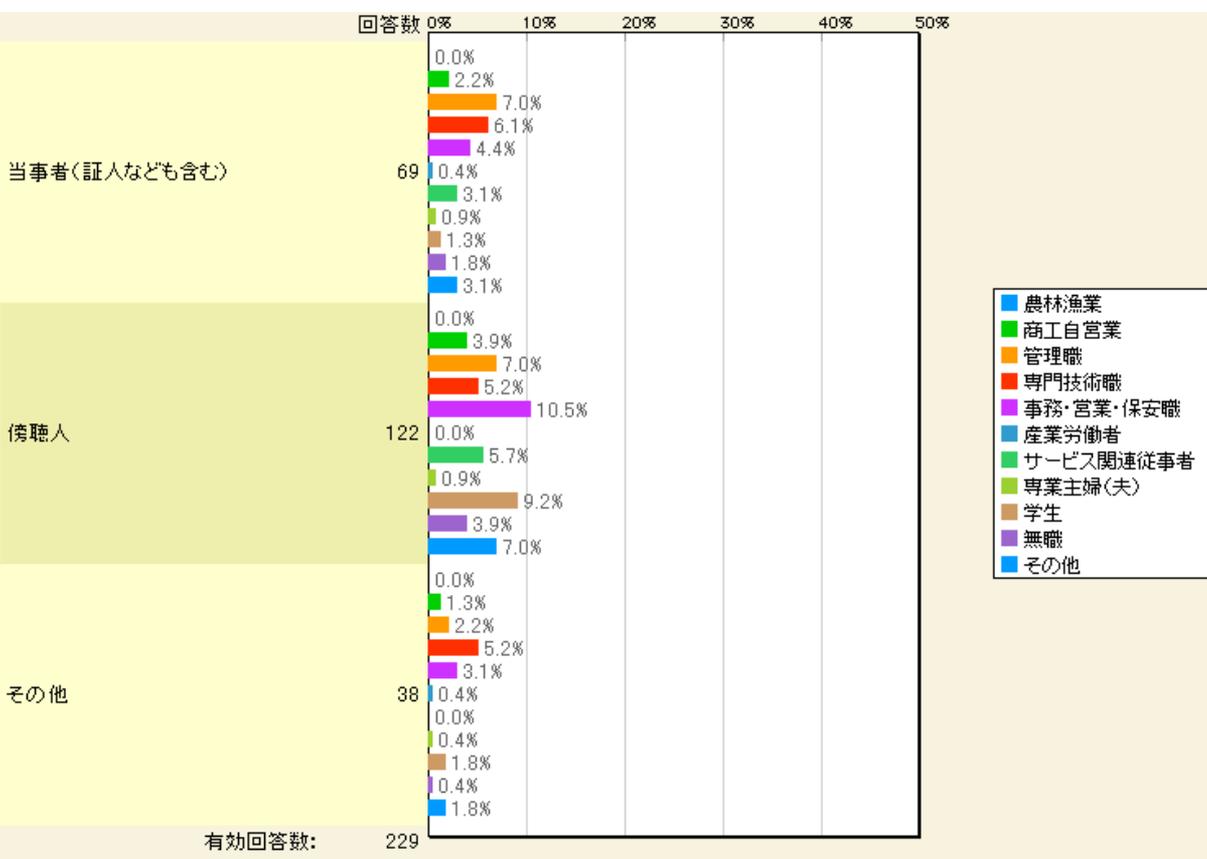
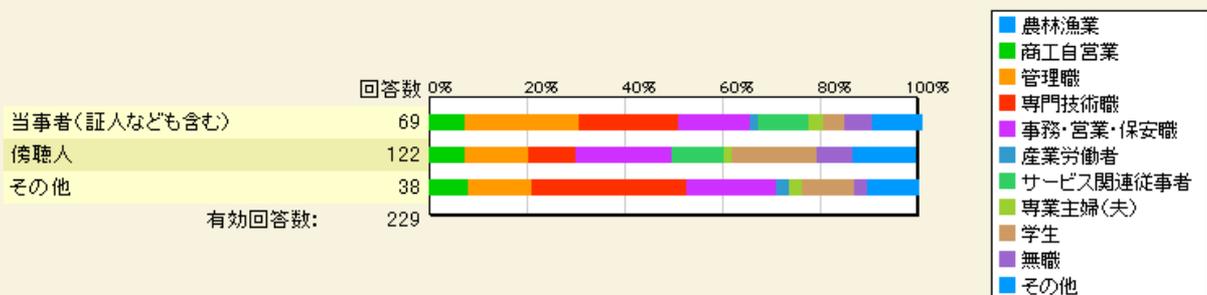
男性が女性に比べて「行ったことがある」と答えた人の割合が(男女比=3:1)に対して高め  
一方で女性は「いいえ」と答えた人の割合がやや高い

Q1-2. その裁判には、どのような形で関わられましたか？



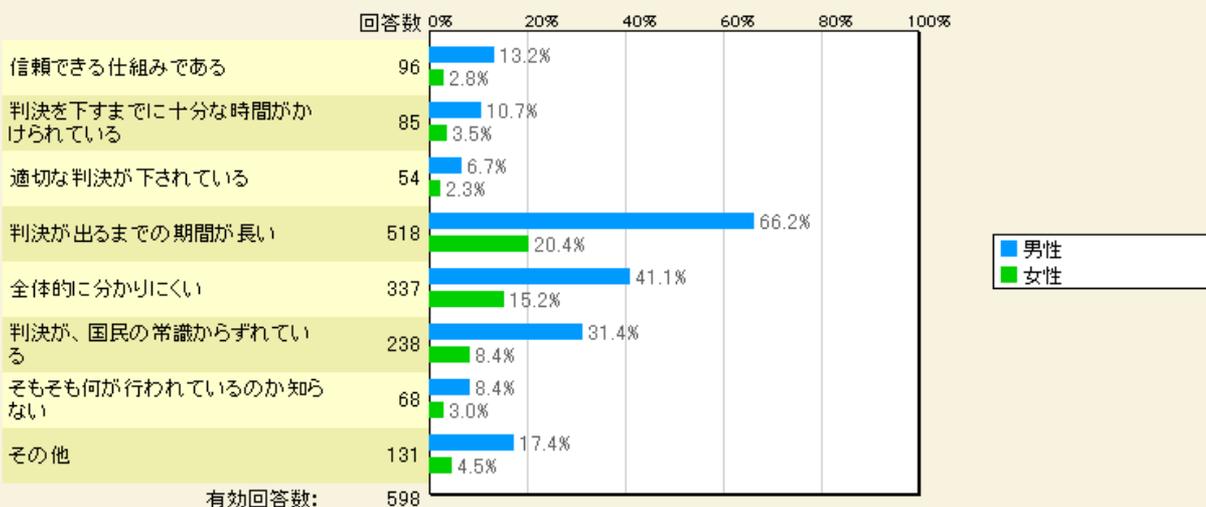
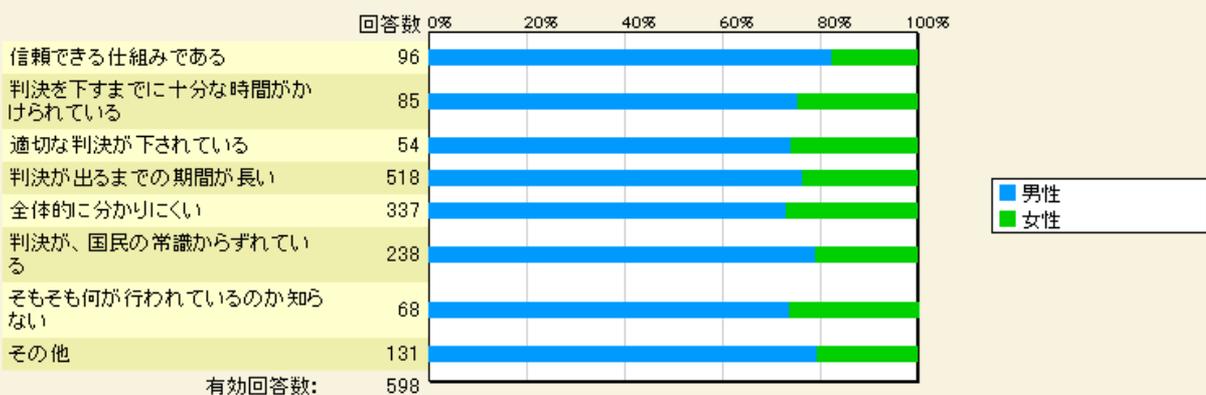
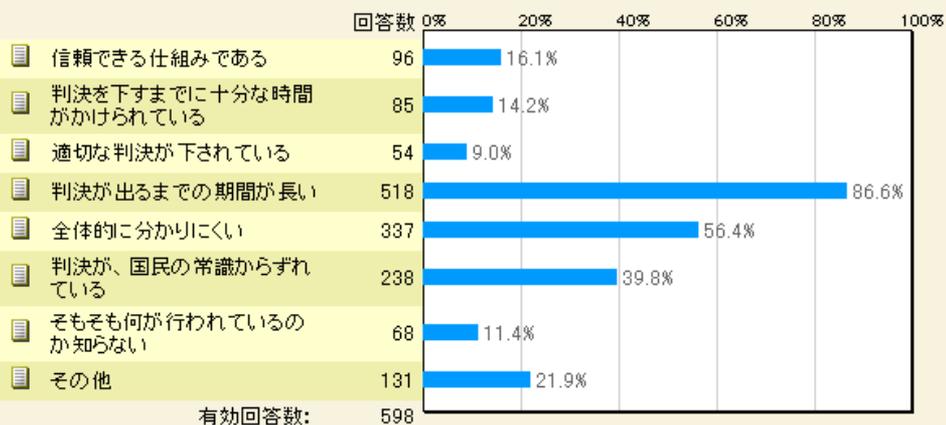


Q1-2. その裁判には、どのような形で関わられましたか？

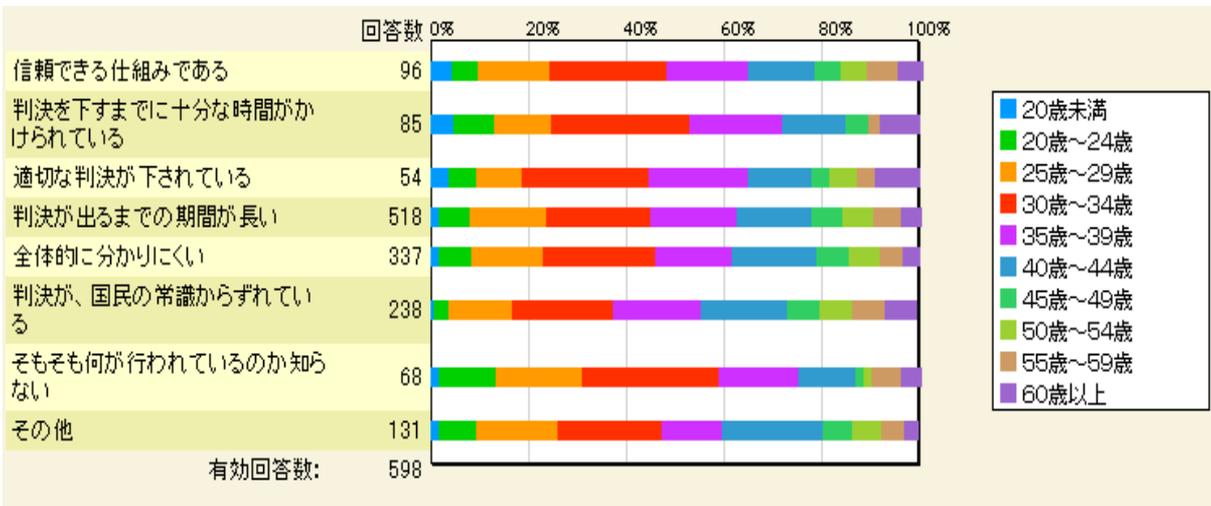


男性は当事者(n=69)と答えた人の割合が多い(男女比3:1に対し、13:2)  
 傍聴人(n=122)と答えた人に学生の割合が高い  
 ※事務営業保安職 10.5%、学生 9.2%の順

Q2. 現在の裁判についての印象をお聞かせ下さい。

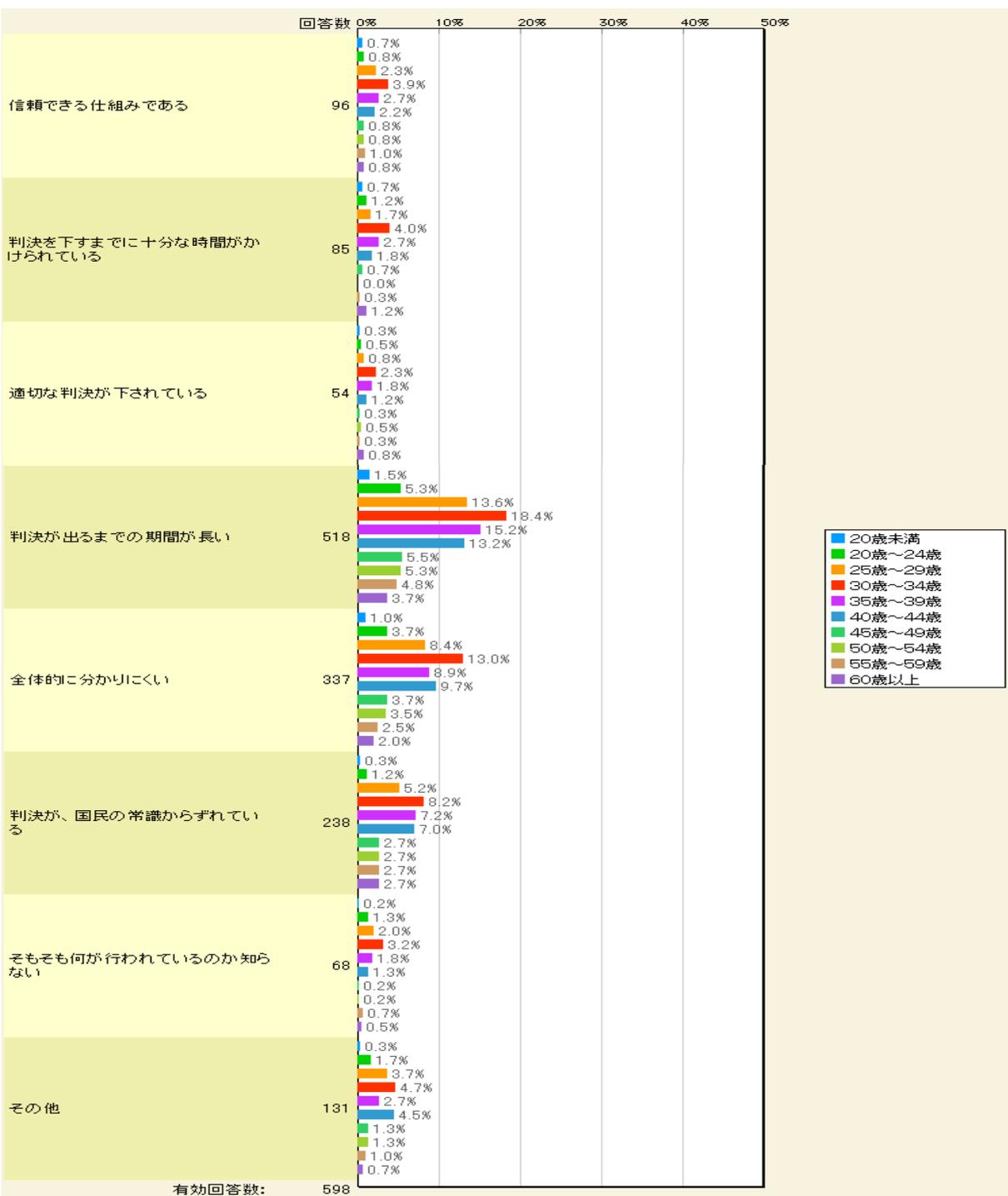


Q2. 現在の裁判についての印象をお聞かせ下さい。

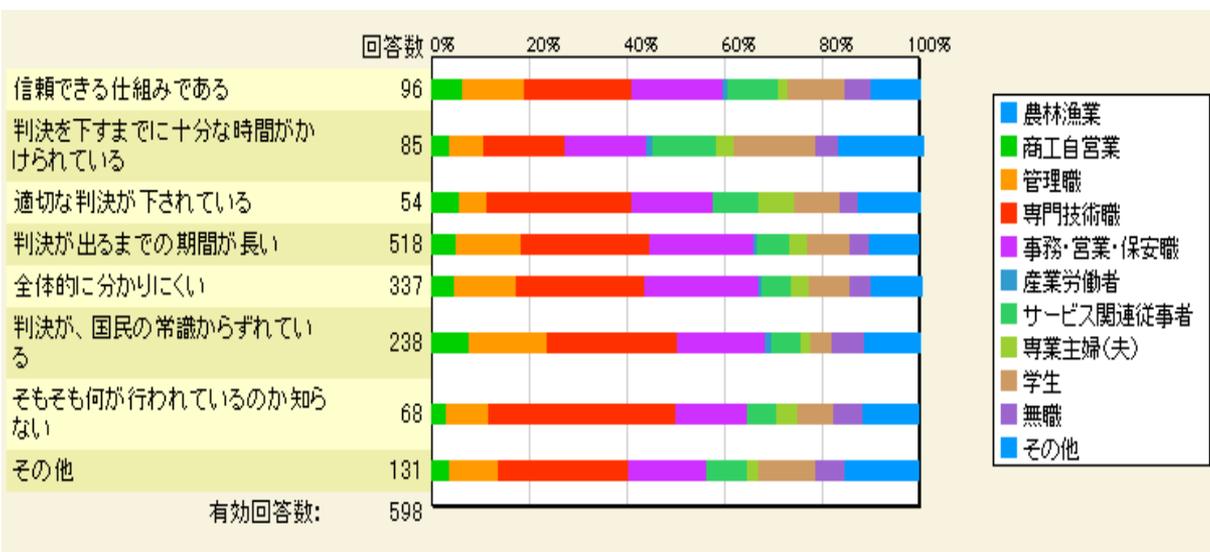


回答数上位3つの設問が、「期間が長い 86.6%・分かりにくい 56.4%・常識からずれている 39.8%」という消極的な理由に集中している

Q2. 現在の裁判についての印象をお聞かせ下さい。



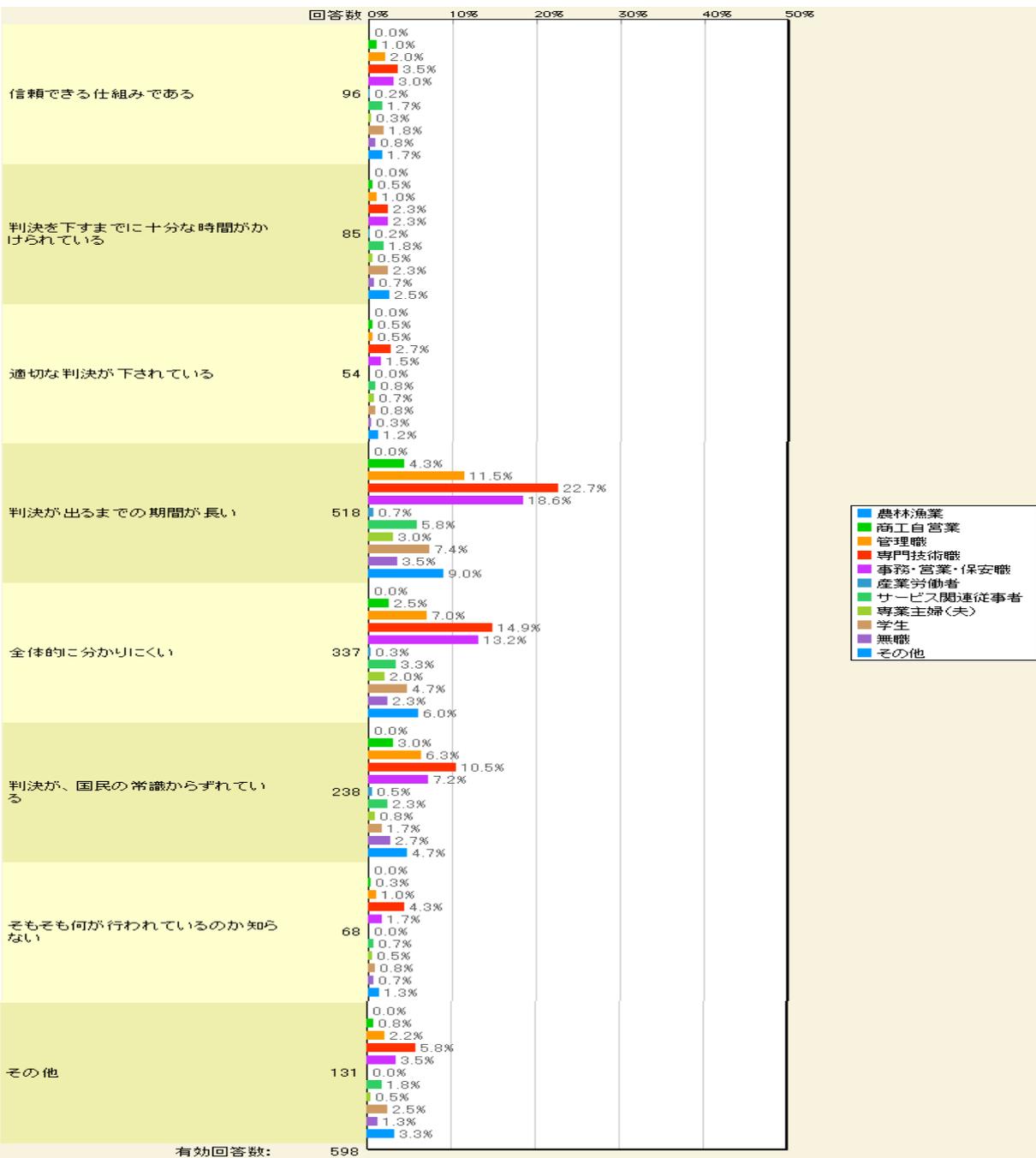
Q2. 現在の裁判についての印象をお聞かせ下さい。



(n=598)

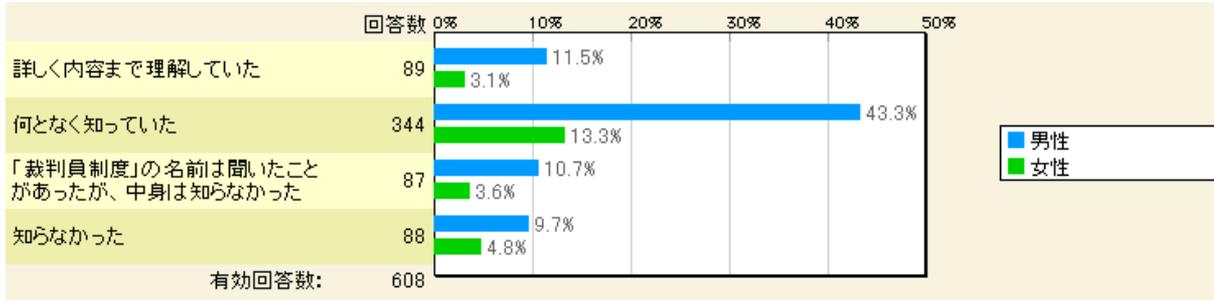
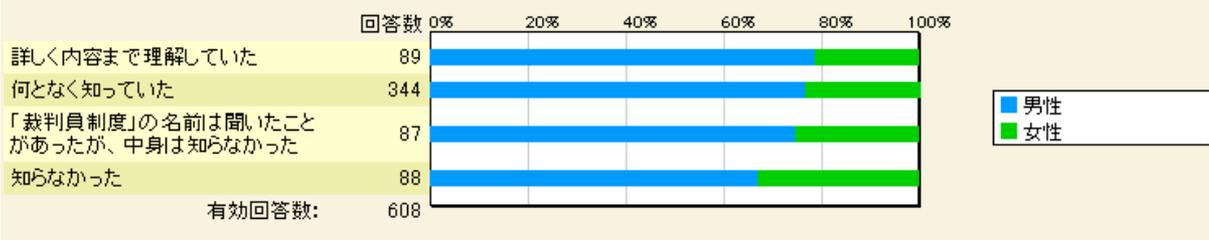
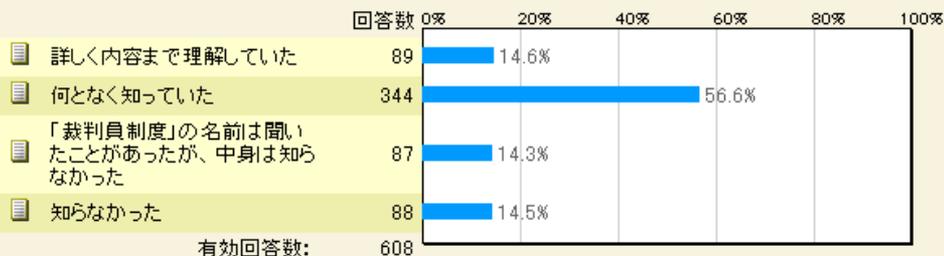
判決を下すまでに十分な時間がかけられている(n=85)と答えた人に学生の割合が多い  
 そもそも何が行なわれているか知らない(n=68)と答えた人に専門技術職の割合が多い

Q2. 現在の裁判についての印象をお聞かせ下さい。



十分な時間がかかっている 職業別トップ 学生 2.5%  
 そもそも何が行なわれているか知らない 職業別トップ 専門技術職 4.3%

Q3. 今回のアサヒコム「裁判员制度特集」をご覧になるまでに、裁判员制度についてご存知でしたか？



(n=608)

「詳しく内容まで理解していた、何となく知っていた」で7割。

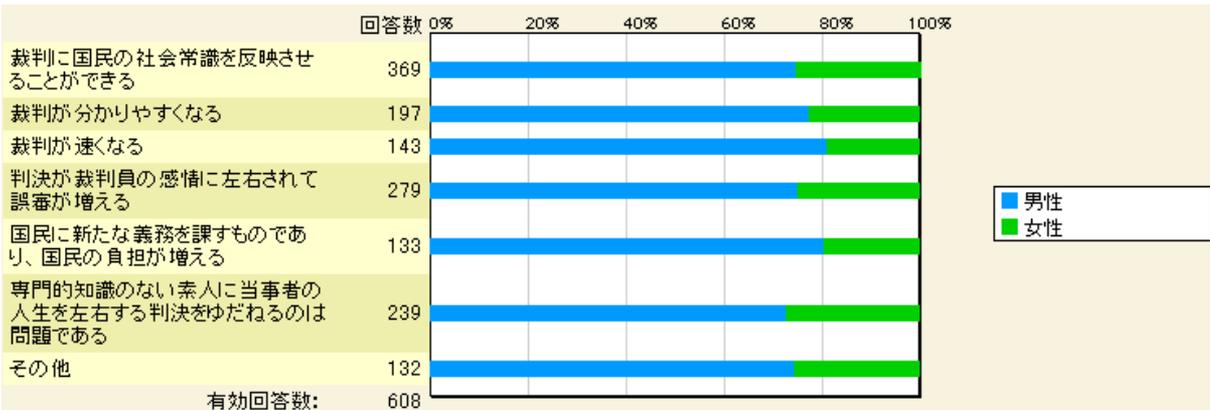
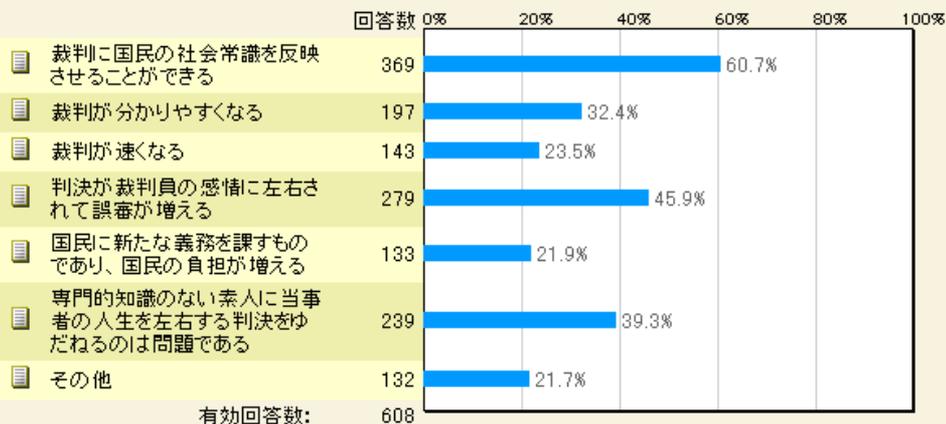
「中身は知らないまでも名前を知っている」と答えた人を含めると全体の85%に及ぶ。

女性は「知らなかった」(n=88)と答えた人の割合が男女比2:1と高い

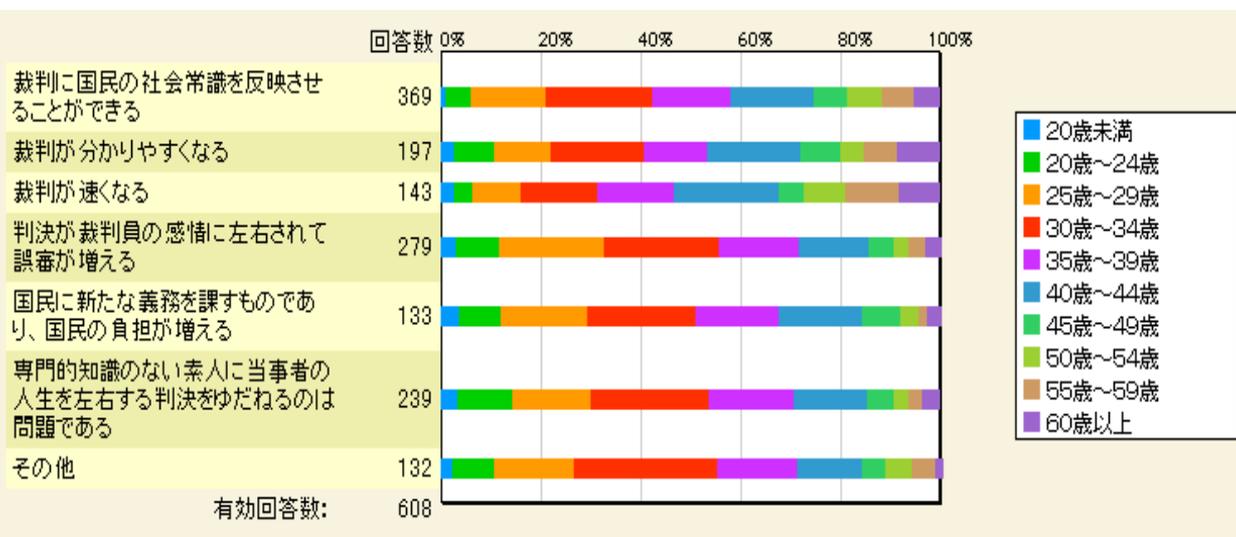




Q4. 裁判員制度について、あなたのお考えに近いものをお選びください。



Q4. 裁判員制度について、あなたのお考えに近いものをお選びください。



(n=608)

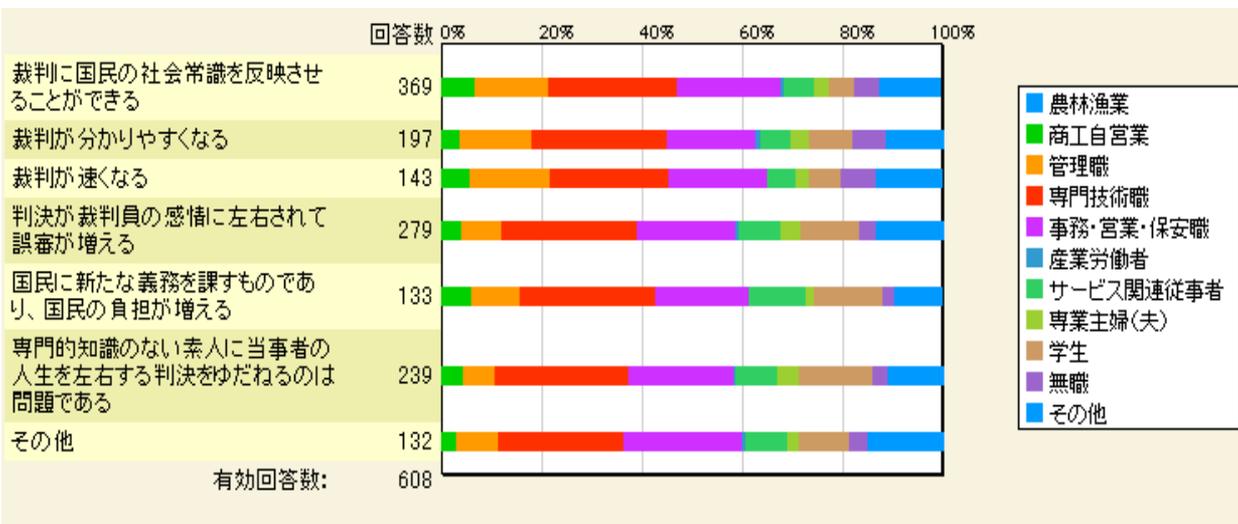
回答者の多い順に、「国民の社会常識を反映 60.7%・感情に基づく誤審が増える 45.9%・素人が判断するのは問題 39.3%」となっている。

前向きな制度になることを期待するポジティブな意見がある一方で、ネガティブな意見が併存している



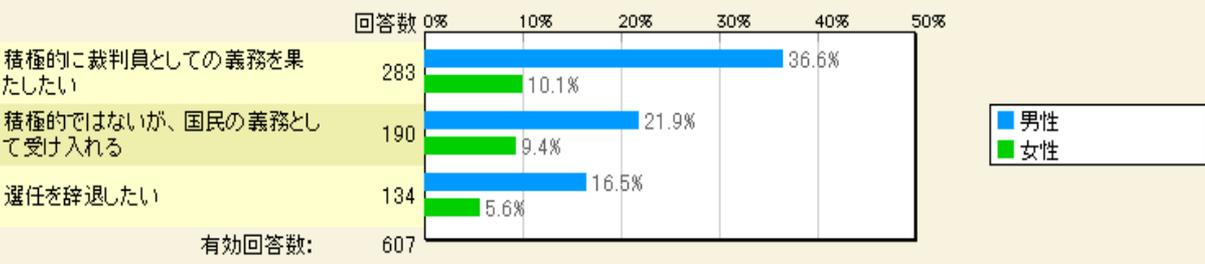
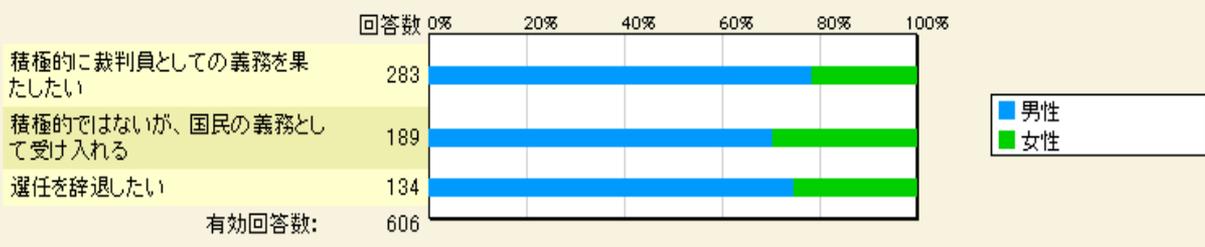


Q4. 裁判員制度について、あなたのお考えに近いものをお選びください。





Q5. あなたが現実に裁判員として選任されたとしたら、どのようにお考えになりますか？



(n=607)

消極的な参加意志までを含めると、約8割弱が義務を果たすと答えている。  
 男性は「積極的に義務を果たしたい(n=283)」と答えた人の割合がやや高い  
 (男女比3:1に対して4:1)

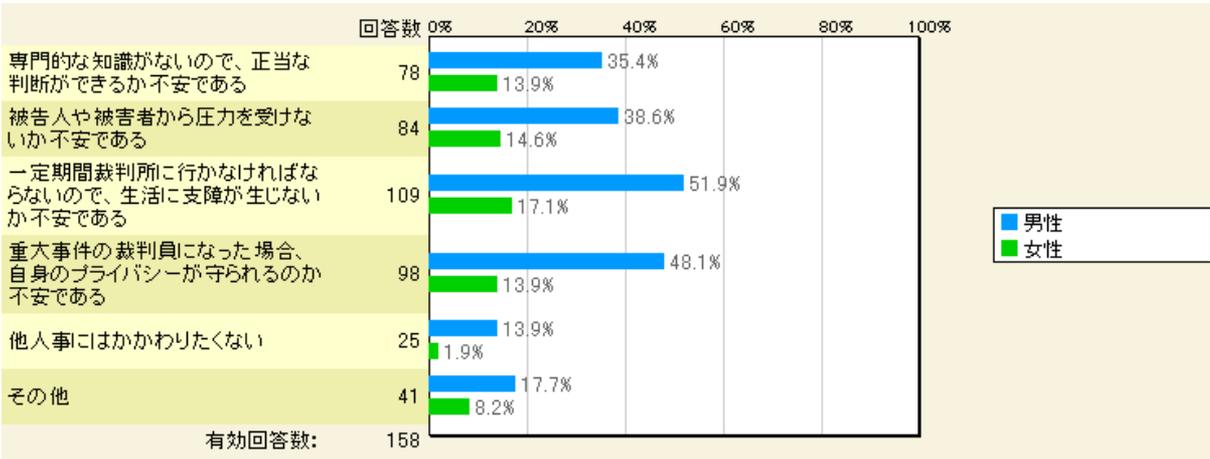
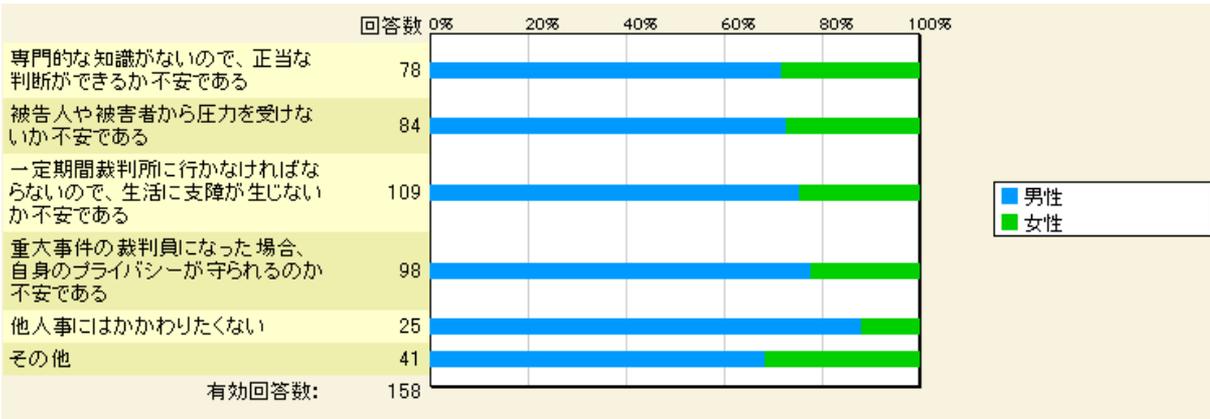
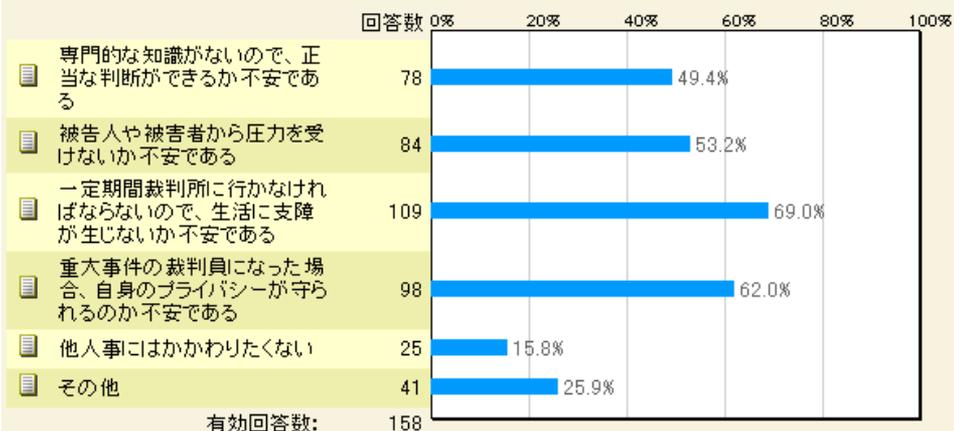
女性は「積極的ではないが~(n=190)」と答えた人の割合が高い(同比2:1)

専業主婦(主夫)で辞退する(n=134)と答えた人はほとんどいない(0.5%)

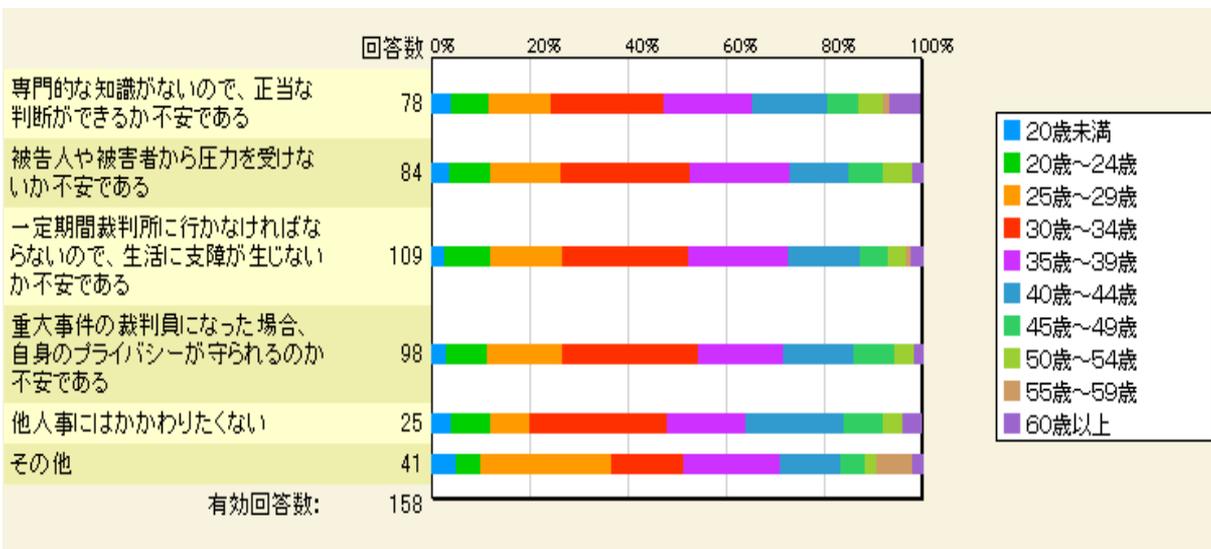




Q5-2. 上記の質問で「選任を辞退したい」と答えた場合、その理由は何ですか？



Q5-2. 上記の質問で「選任を辞退したい」と答えた場合、その理由は何ですか？



(n=158)

回答数の上位3位は「生活面 69.0%・個人のプライバシー 62.0%・被告人、被害者からの圧力 53.2%」

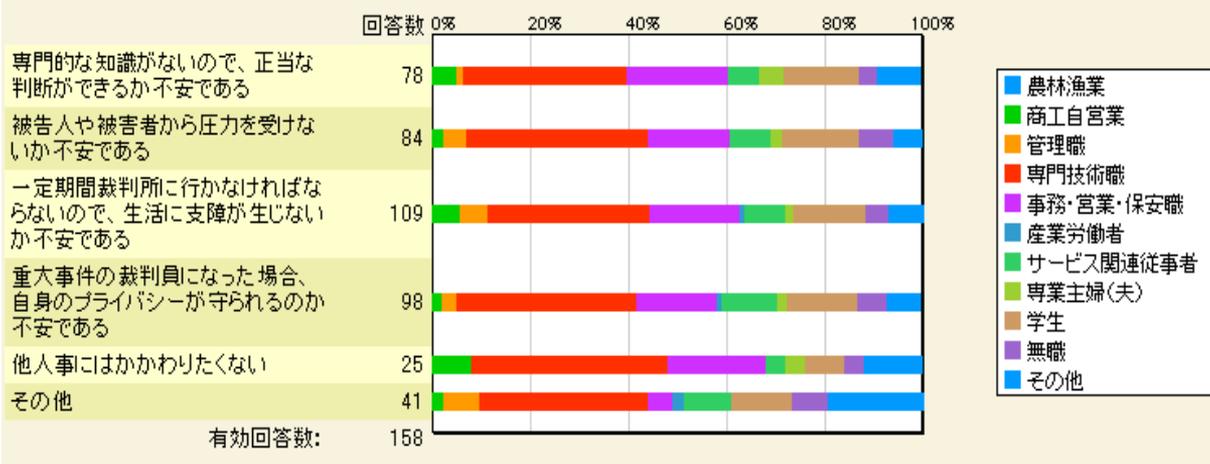
男性は他人事には関わりたくない(n=25)と答えている人の割合が多い(男女比7:1)

ほとんど全ての設問において専門技術職の割合が高く見られる

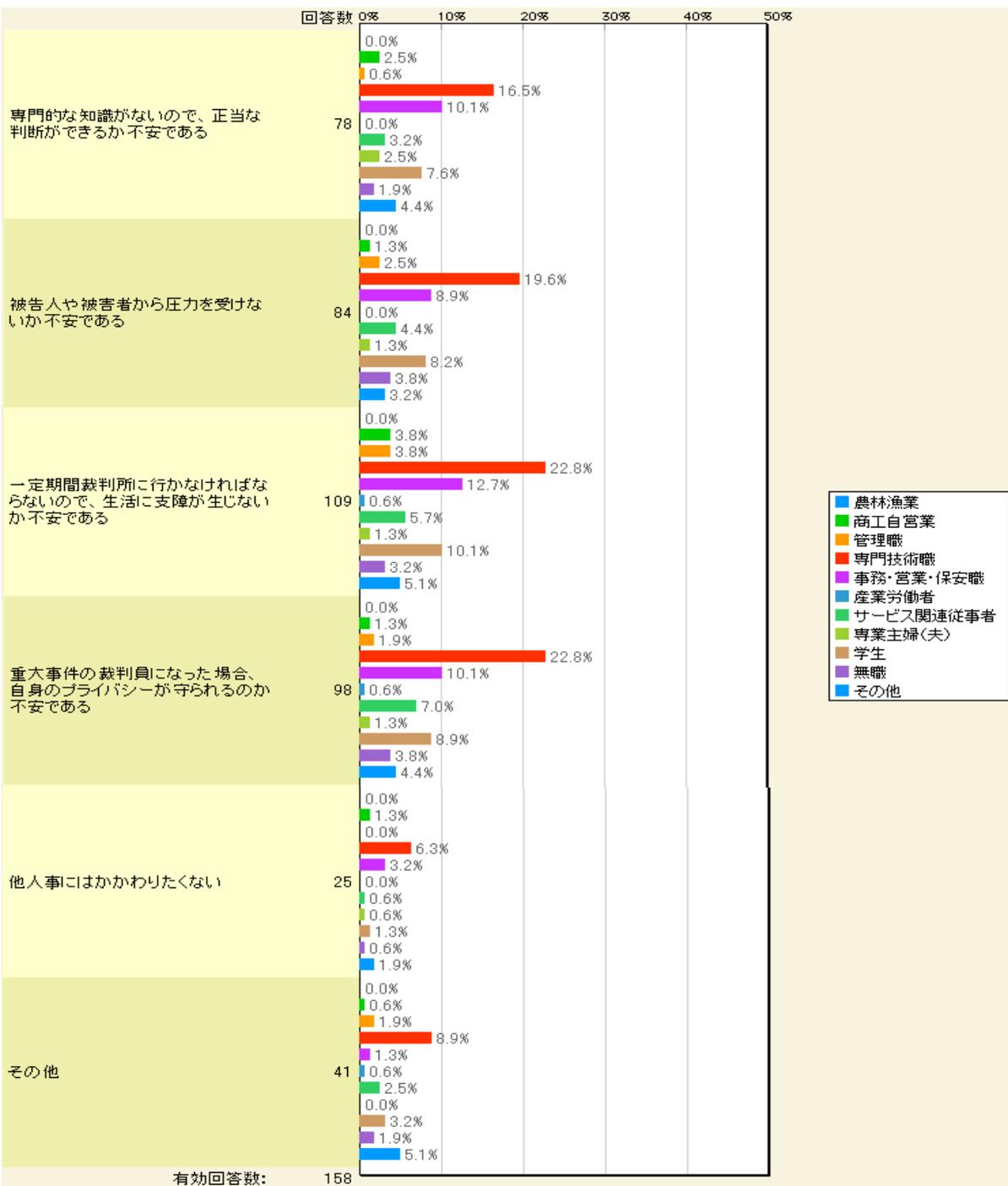
※全ての回答において専門技術職が占める割合が最も多くみられる



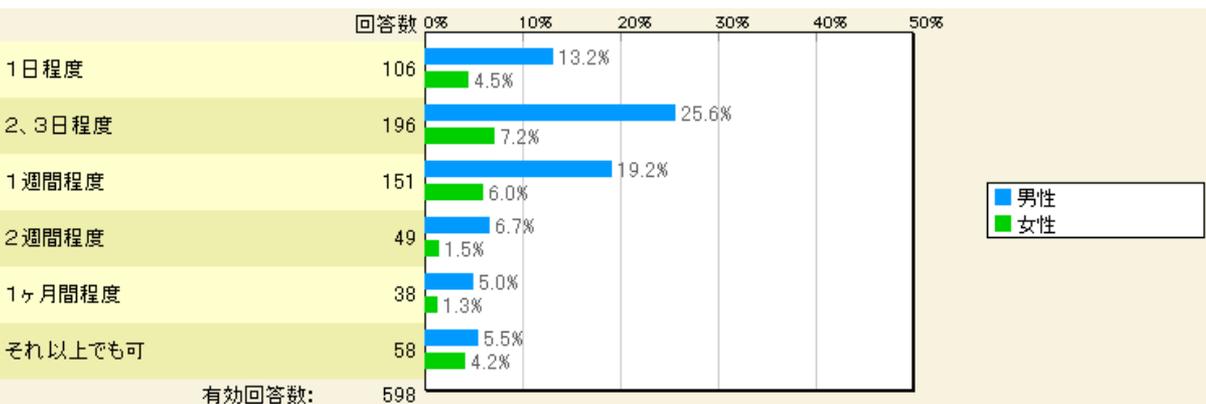
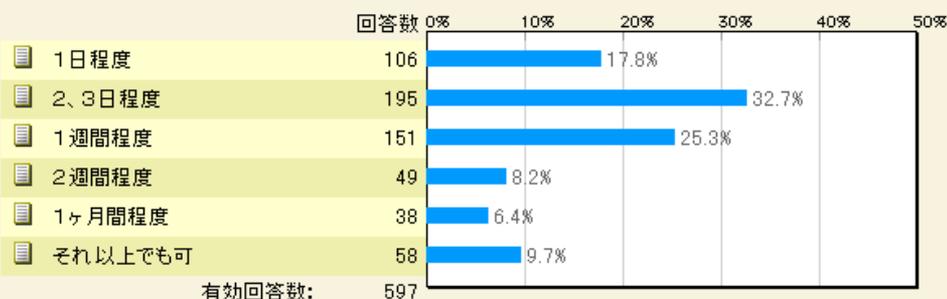
Q5-2. 上記の質問で「選任を辞退したい」と答えた場合、その理由は何ですか？



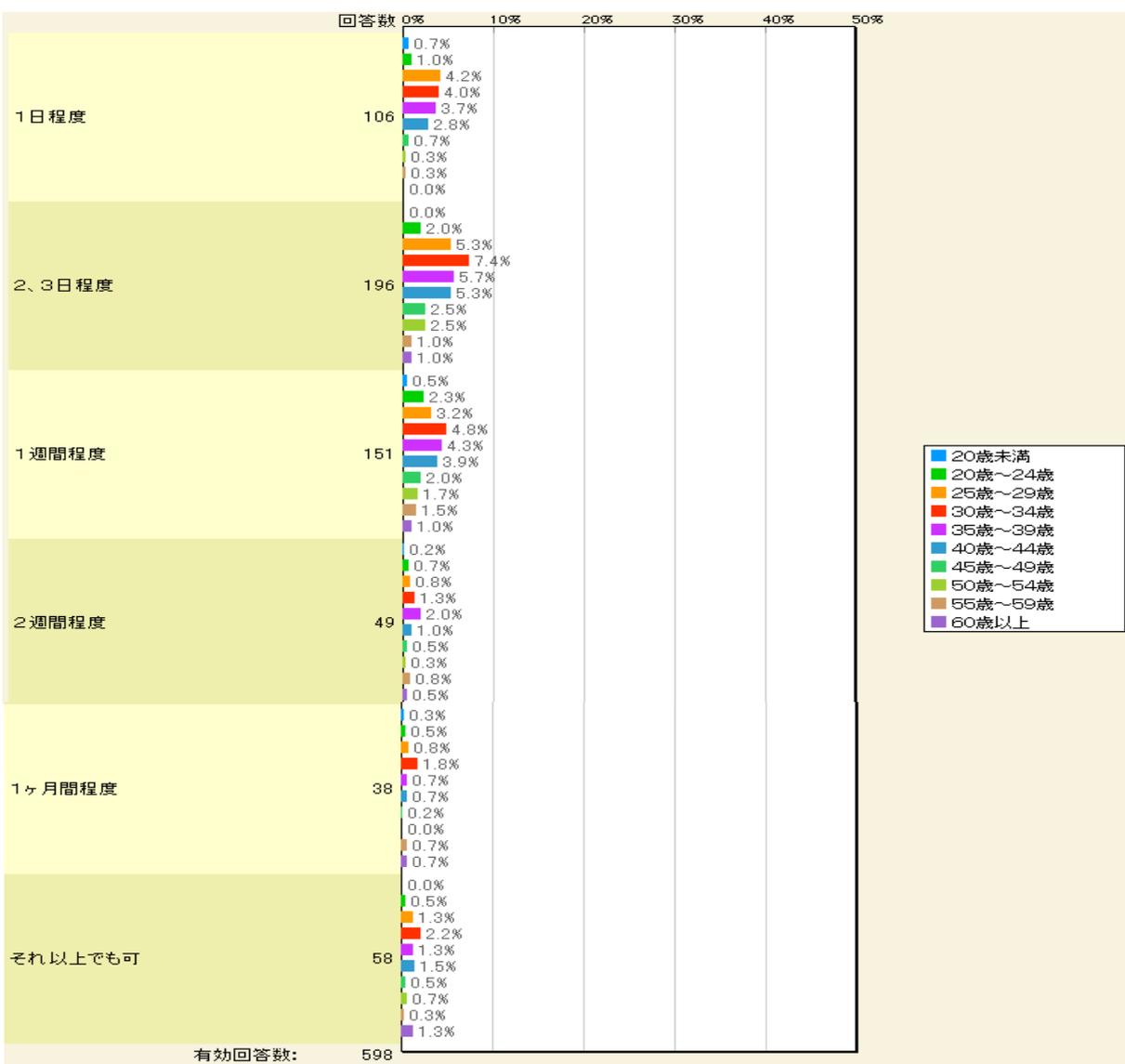
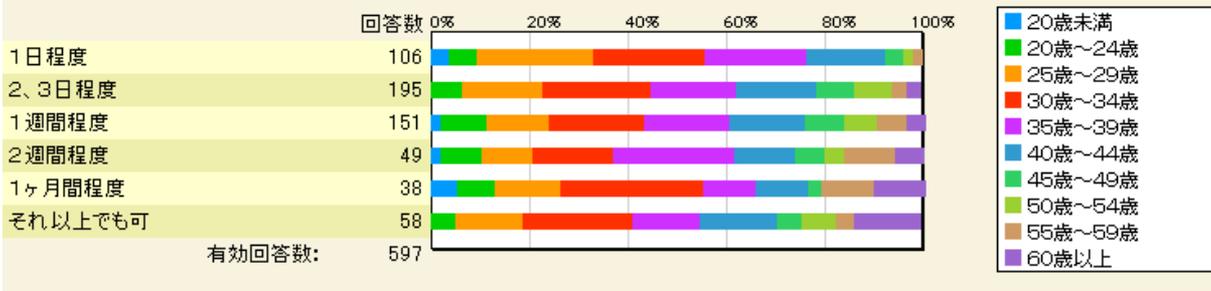
Q5-2. 上記の質問で「選任を辞退したい」と答えた場合、その理由は何ですか？



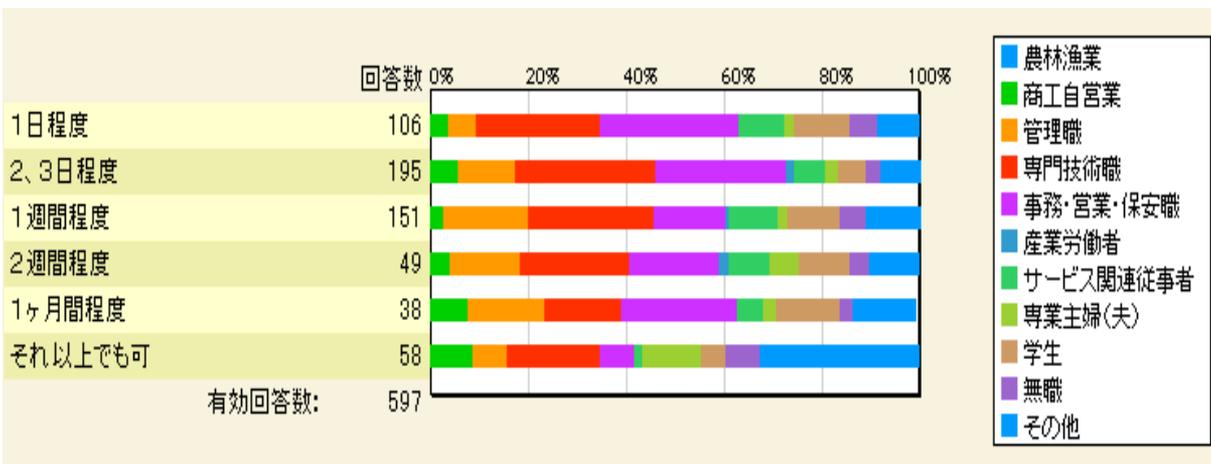
Q6. 裁判員としての職務に従事するに当たり、あなたが許容できる期間をお答えください。



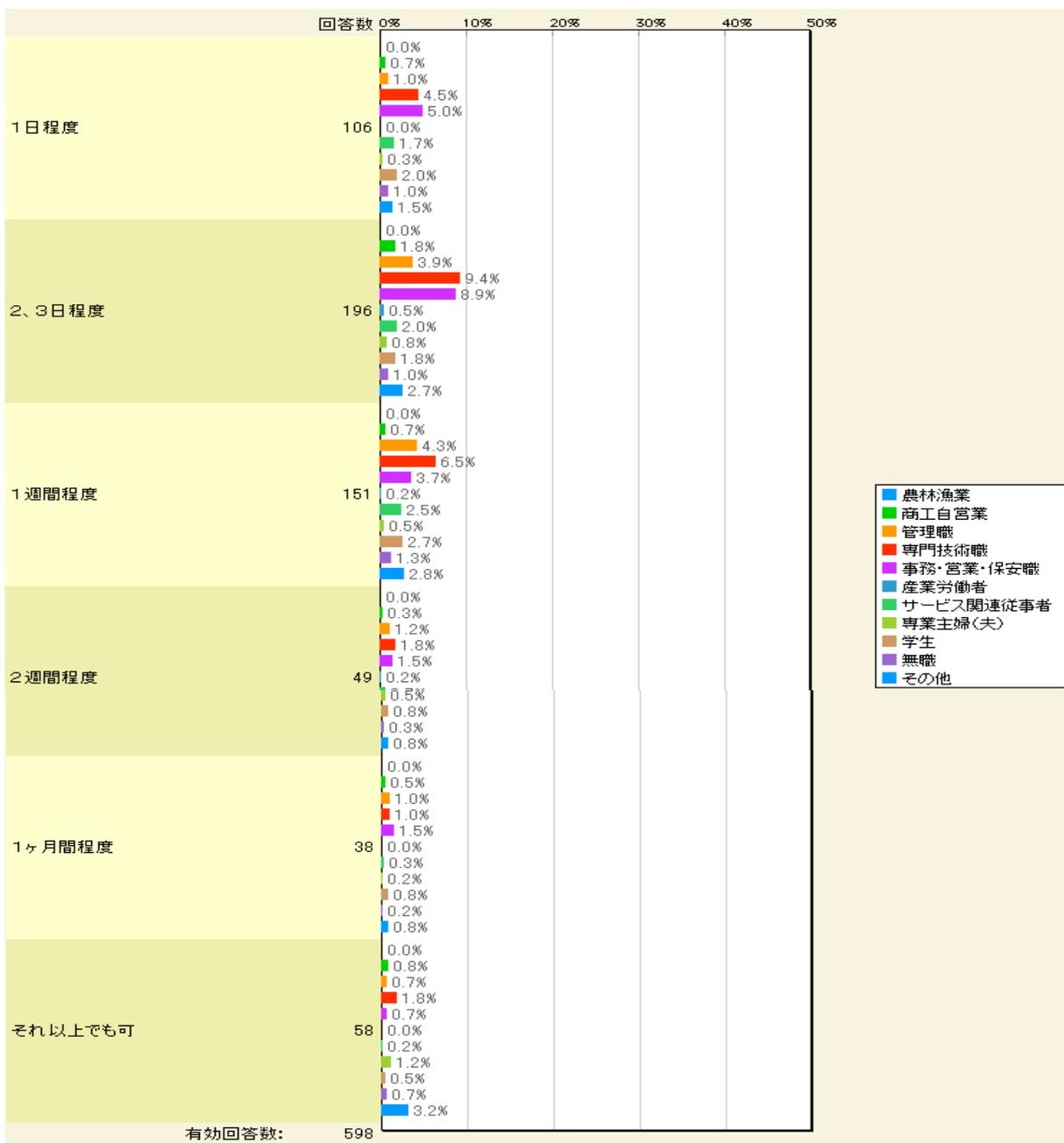
Q6. 裁判員としての職務に従事するに当たり、あなたが許容できる期間をお答えください。



Q6. 裁判員としての職務に従事するに当たり、あなたが許容できる期間をお答えください。



Q6. 裁判員としての職務に従事するに当たり、あなたが許容できる期間をお答えください。



- 農林漁業
- 商工自営業
- 管理職
- 専門技術職
- 事務・営業・保安職
- 産業労働者
- サービス関連従事者
- 専業主婦(夫)
- 学生
- 無職
- その他

1週間を超えるとボリュームゾーンである管理職・専門技術職・事務営業保安職の割合が落ちる  
 男性は2・3日程度(n=196)と答えた人の割合が多いのに対し、女性は1ヶ月以上でも可(n=58)と答えた人の割合が多い ※前者は男女比4:1、後者は同比5:4  
 2週間程度より長期にわたって可能と答えた人には55歳以上の人が多い



# あなたの意見を政策に反映させてみませんか!! 国民が参加する司法へ 裁判員制度

協力：司法制度改革推進本部

今回の朝日パブリック・コメントのテーマは、「裁判員制度」についてです。

司法制度改革は、日本の社会が、「事前規制・調整型の社会」から「事後チェック・救済型の社会」へと変わりつつあることよって、司法の果たすべき役割が、これまで以上に大きくなるという観点から、新しい社会にふさわしい、国民に身近で信頼される司法制度を作るために進められているものです。

裁判員制度は、国民が、刑事裁判において、裁判員として裁判官と共に、有罪・無罪や刑の決定に関与するといふもので、国民の司法参加の観点から導入が検討されており、平成16年通常国会に関連法案が提出される予定となっています。

裁判員は、一般の国民から無作為に抽出された人の中から選ばれることとされており、裁判内容に、法律の専門家でない国民の健全な社会常識が、より反映されるようになることよって、国民の司法に対する理解と支持が深まることが期待されています。

裁判員制度による裁判の流れについては、以下のフローチャートをご覧ください。黄色い☆印が点滅している箇所が現在検討中の事項です。

皆様から頂いたご意見は、本年9月中旬に、司法制度改革推進本部事務局にて開催予定の検討会の場にて、「国民からの意見」として提出致します。

是非、みなさまのご意見をお待ちしております。



朝日新聞広告局

## ▶ 裁判員制度とは

### 裁判員制度導入の意義について

1. 納得のゆく裁判の実現
2. 分かりやすい裁判の実現
3. 迅速な裁判の実現

司法制度改革についての詳しい情報は司法制度改革推進本部のページをご覧ください。

[司法制度改革推進本部へ](#)

[裁判員制度・刑事検討会の検討状況](#)

## ▶ 裁判員制度による裁判の流れ

### 裁判員制度が導入された後の裁判の概要です。

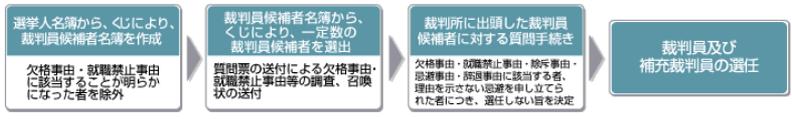
用語説明

ただいま検討中 このマークのついている項目は現在検討中ですので、新制度導入後の姿と異なることがあります。



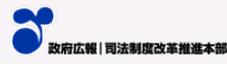
裁判員の選任について

**たのしい  
権利** 具体的手続きのイメージ



**たのしい  
権利** 公正な裁判を確保するために

- 欠格事由**  
【趣旨】職務遂行能力又は人格的信用に欠ける者が裁判員の地位に就くことを制限  
【具体例】民法上の行為能力がない者や一定以上の前科がある者など
- 就職禁止事由**  
【趣旨】国民一般の社会常識を反映させるといふ裁判員制度の趣旨や三権分立の観点から、司法関係者及び立法・行政の中核を担う者が裁判員の地位に就くことを制限  
【具体例】法曹関係者、国会議員、閣僚など
- 除斥事由**  
【趣旨】事件の当事者又は事件自体と一定の関係にある者が裁判員の地位に就くことを制限  
【具体例】被告人又は被害者、被告人又は被害者の親族など
- 忌避事由**  
【趣旨】当事者からの申立てにより、不公平・不公正な裁判をするおそれがある者を排除  
【具体例】被告人又は被害者の親友である者など(理由を示さない忌避を認めるか検討中)
- 辞退事由**  
【趣旨】本人からの申立てによって、裁判員の職務に就くことを免除  
【具体例】病氣、一定の年齢の以上の者、その他のやむを得ない事由



みなさんのご意見お待ちしております。



裁判員制度について皆様のご意見を募集しています。パブリック・コメントに答えていただいた方から抽選で20名様に2,000円分の図書カードを差し上げます。

**ご意見はこちら**

asahi.comのプライバシーポリシーはこちら

▲ ページ先頭へ

広告

企画・制作 朝日新聞広告局



あなたの意見を政策に反映させてみませんか!!

## 国民が参加する司法へ 裁判員制度

協力: 司法制度改革推進本部

### → 裁判員制度に対するパブリック・コメント

裁判員制度に対するあなたのご意見をお寄せください。  
朝日新聞社は責任をもって皆様のご意見を司法制度改革推進本部へ伝えます。  
司法制度改革推進本部は、寄せられた意見を参考にして、裁判員制度の立案作業を進めます。

#### ■あなたの情報を記入してください

お名前※ **必須**

姓  名

ご住所

〒  -  都道府県

電話番号

-  -

メールアドレス

@

性別※ **必須**

男性  女性

年齢※ **必須**

年齢を選択してください

職業※ **必須**

職業を選択してください

お答えいただいたご意見を提出してもよろしいですか※ **必須**

はい  
 いいえ

#### ■裁判員制度に関する質問です。

Q1. あなたは裁判所に行った事がありますか？

はい (「はい」とお答えの方はQ1-2へ)  
 いいえ

Q1-2. その裁判には、どのような形で関わられましたか？

当事者(証人なども含む)  
 傍聴人  
 その他 (その他とお答えの方は下のテキストエリアにお答えください)

Q2. 現在の裁判についての印象をお聞かせ下さい。(複数選択可)

- 信頼できる仕組みである
- 判決を下すまでに十分な時間がかけられている
- 適切な判決が下されている
- 判決が出るまでの期間が長い
- 全体的に分かりにくい
- 判決が、国民の常識からずれている
- そもそも何が行われているのかわからない
- その他 (その他とお答えの方は下のテキストエリアにお答えください)

Q3. 今回のアサヒコム「裁判員制度特集」をご覧になるまでに、裁判員制度についてご存知でしたか？

- 詳しく内容まで理解していた
- 何となく知っていた
- 「裁判員制度」の名前は聞いたことがあったが、中身は知らなかった
- 知らなかった

Q4. 裁判員制度について、あなたのお考えに近いものをお選びください。(複数選択可)

- 裁判に国民の社会常識を反映させることができる
- 裁判が分かりやすくなる
- 裁判が速くなる
- 判決が裁判員の感情に左右されて誤審が増える
- 国民に新たな義務を課すものであり、国民の負担が増える
- 専門的知識のない素人に当事者の人生を左右する判決をゆだねるのは問題である
- その他 (その他とお答えの方は下のテキストエリアにお答えください)

Q5. あなたが現実には裁判員として選任されたとしたら、どのようにお考えになりますか？

- 積極的に裁判員としての義務を果たしたい
- 積極的ではないが、国民の義務として受け入れる
- 選任を辞退したい (「選任を辞退したい」とお答えの方はQ5-2へ)

Q5-2. 上記の質問で「選任を辞退したい」と答えた場合、その理由は何ですか？(複数選択可)

- 専門的な知識がないので、正しい判断ができるか不安である
- 被告人や被害者から圧力を受けられないか不安である
- 一定期間裁判所に行かなければならないので、生活に支障が生じないか不安である
- 重大事件の裁判員になった場合、自身のプライバシーが守られるのか不安である
- 他人事にはかかわりたくない
- その他 (その他とお答えの方は下のテキストエリアにお答えください)

Q6. 裁判員としての職務に従事するに当たり、あなたが許容できる期間をお答えください。

- 1日程度
- 2、3日程度
- 1週間程度
- 2週間程度
- 1ヶ月間程度
- それ以上でも可

Q7. 最後に「裁判員制度」に関して、あなたのご意見をご自由にお書きください

送信 リセット

裁判員制度トップページに戻る

▲ ページ先頭へ

**朝日** Asahi Public  
Comment  
**パブリック  
コメント** 

あなたは  
**裁判員制度を  
ご存じですか?**

広告



**えっ、私が裁判員!?**

裁判員制度について  
**あなたの意見を政策に  
活かしてみませんか**

アサヒ・コム上にてご意見を募集中

<http://www.asahi.com/saibanin/>

**プレゼント** ご意見をお寄せいただいた方に抽選で  
2,000円の図書カードをプレゼント

協力：司法制度改革推進本部  
企画・制作 朝日新聞社広告局